
譲れない居場所

茶まる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

譲れない居場所

【Nコード】

N1990W

【作者名】

茶まる

【あらすじ】

高杉↓新八↓万事屋（銀さん）↓↑桂 的な感じ
です。

内容は暗めで、擦れた新八はるる剣の瀬田宗次郎的なイメージです

(前書き)

内容の暗い素人文ですが、少しは萌えを提供出来れば嬉しいです。
桂好きはちよつと要注意かも…

誤字脱字おかしな文法等あれば遠慮なく指摘してください

「よう餓鬼…お前随分と鋭い牙隠し持つてるじゃねえか…」

あの人…桂さんが去った後の路地裏で、腕を掴まれそう声を掛けられたのが僕と彼の最初の接触。

「何の事ですか？」

見られたことは気配で分かっていた、だから脅しの意味も込めて僕は最高の笑顔で言葉を返す。
まあこの人に通じるとは思わないけど

「クッククク…あの桂を脅すとはな」

「仕方ないじゃないですか、銀さんを万事屋…僕から離そうとするんですから。」

僕の腕を掴んでいる彼は紅桜の一件の首謀者の一人、高杉晋介。
彼の問いに僕はさっきと同じ笑顔に少し苛立ちを込めてまた言葉を返した。

実際あの人は何度も万事屋に来る。…いや、銀さんに会いに来ると言った方が正しいだろう。

『この国を取り返すのを手伝え』
言うことは決まって同じ

『断る』

銀さんの答えもいつも同じ

それでも来るのは銀さんに会いたいからだと言う事、そして銀さんもあの人が来ることを本当は喜んでいる事。

それは僕も神楽ちゃんも密かに分かっている事実だ。

だからこそ僕は強さを隠し、自らが守るべき物となって銀さんを引き留めている。

守るべき物を放り出してまでどこかに行く人じゃない、銀さんはそういう人だから。

そんな事を考えていると

パシッ

と言う音とともに、頬に鋭い痛みが走った。

「人と話してんのに考え事なあゝ：駄のなつてねえ餓鬼だな」

痛みに顔を上げたそこにいたのは不愉快そうな表情を隠そうともしない彼

「すみません、すっかり忘れてました」

さっきまでと同じ笑顔でそう言いながら、僕もお返しとばかりに掴まれた腕を逆に捻り上げると、彼も少し苦しそうに顔をしかめる。

「結構痛かったんで仕返しです。」

そう言ってそのまま腕を振りほどこうとした瞬間、ぐっと強い力で

体ごと彼の方に引き寄せられた。

そのまま驚いた隙に両手首を一纏めに掴まれる。

そして空いていた手で顎を掴まれたかと思うと、顔をじつくりと見るかのように持ち上げられ、ゆっくりと耳元で囁かれた。

「良い眼してるじゃねえか…お前、銀時の所に置くには勿体ないな…俺の所に来い。色々と楽しませてやるよ」

「なっ!?!?…」

「もう分かってんだろ…? 銀時はお前の事なんてそれ程考えてねえ事に」

分かってんだろ…?

彼にそう言われた瞬間混乱した頭に浮かんだのは、あの人の一言。

あの人は銀さんの名前を呼んだ、たぶん無意識に。

「分かりませんよ…そんなの…」

辛うじてそう答えたが、

それは彼に答えた言葉だったのか、自分に言い聞かせた言葉だったのか。

正直、銀さんがあれを聞いていたら

「銀時…」

と呟くあの人の声を聞いていたら…きっと。

と、そこで聞こえた低い笑い声で僕の思考は中断された。

「クッククッ…その表情はしっかりと分かってるって表情だな…口ではどんなに言ってもな」

彼はそう言いながら僕を拘束していた手に力を入れると、苦しきから少し開いた唇に舌をねじ込み、そのまま深く口付けてくる。

「ふっ…んんっ」

齒列をなぞられ、逃げる舌を捕まえられる

「んんんっ…」

くちゅくちゅと口の中をかき回される感覚と、息の出来ない苦しきで意識が朦朧としてきた所でやっと唇も体も解放された。

「手付けはもらった、次は必ずお前自身をもらいに来る。じゃあな…新八」

力の入らない体で壁に背中を預け息を整えてる頬を撫でながら、彼…いや、高杉さんは楽しそうに僕にそう言うとそのまま背を向け歩きだした

「名前…知ってたんじゃないんですか…」

銀さん、あの人への想いを封印したまま万事屋にいてください。

でないと僕は…

自分こじ開けた心の隙間に無理矢理入って来た人—高杉晋介—

「あっちに行っちゃってしまいそうですから」

1人そう呟くと、僕はしばらく空を見上げていた。

（後書き）

最後まで読んで下さった勇者っぷりに感謝です。

少しでも萌えを提供出来ていれば、スライディング土下座で全力でお礼したいくらい（笑）感激です！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1990w/>

譲れない居場所

2011年10月9日14時57分発行